

麦類技術情報 No. 3

平成28年3月30日

麦類栽培者 各位

J A 営農支援課
大湊村麦類生産班

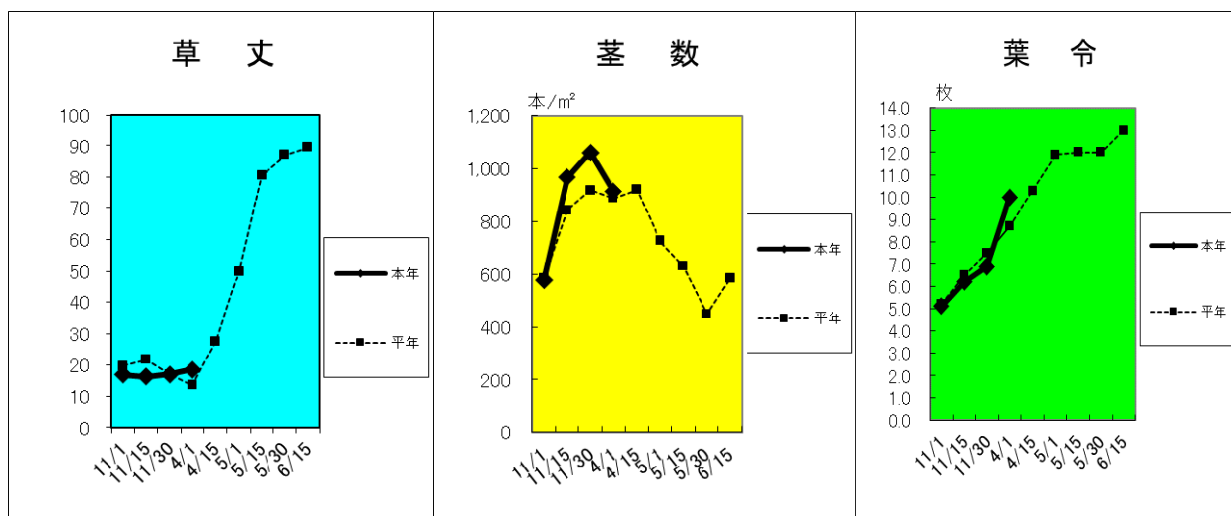
麦類の生育状況と今後の管理について

平成28年産麦類は、例年よりも早い雪解けにより生育の回復が早く、全体的に平年を上回る生育となっております。また、現在の生育状況から幼穂形成期を迎えているものと思われます。また、圃場によっては、雑草（スズメノテッポウ）が繁茂している圃場が見受けられますので、下記を参考に今後の管理に万全を期してください。

1. 3月30日現在の生育状況

	品種名	草丈 (cm)		茎数 (本/m ²)		葉令 (葉)		幼穂 (mm)		SPAD	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
小	銀河のちから	18.5	13.4	914	888	10.0	8.7	3.7	1.8	46.7	51.8
	平年比	138.4%		102.9%		+1.3		+1.9		90.1%	
麦	ネバリゴシ	25.4	14.3	1,396	1,024	10.2	8.7	2.6	2.6	42.3	41.8
	平年比	177.8%		136.3%		+1.5		0		101.2	

2. 銀河のちからの生育相の推移



裏面に続く

3. 今後の肥培管理

現在幼穂形成期（2 mm 期～）を迎えておりますので、N成分 2～3 kg/10a（尿素現物で 5kg～8kg）を目安に追肥を行ってください。

「銀河のちから」は葉色が濃い品種になっておりますので、SPAD値 50 以上であれば追肥を控え、ネバリゴシの葉色は SPAD 値 45 以上と濃い圃場では控えるようにしてください。

4. 雑草対策について

現在「スズメノテッポウ」を中心に各圃場とも雑草が発生しております。

天候を見計らい、まだ散布を実施されていない方は、各自圃場を確認のうえ、**10a 当たり『ハーモニー75DF 水和剤』10g を水 100L（10,000 倍）に溶かして散布してください。**

※スズメノテッポウについては 5 葉期まで。

スズメノカタビラには効果はありません。

麦の草丈が伸びると雑草へ薬剤が付着しないため、十分な殺草効果が得られません。

5. 今後の病害虫防除について

うどん粉病

うどん粉病を初期から蔓延させると防除困難になると同時に、下葉の枯れ上がりが早まり、減収、品質の低下の原因となります。

特に茎数過剰や極端に葉色の濃い圃場においては注意が必要です。発生が確認された場合は『アミスター20 フロアブル』を 2,000 倍液で 100 ㍓/10a 散布してください。